**16 『平治物語』**

が平氏との戦いに敗れた後、義朝の妻・と三人の子は、の追っ手を逃れ、身を隠していた。だが、母（三人の子どもたちにとっては祖母）に身の危険が迫ったため、常葉は子どもたちを伴って自分から名乗り出て、処分を待っていた。

常葉が宿所に帰りぬ。そののち、あらき足音の聞こゆる時は、「今や、わが子どもをうしなひにるらん」とも身にそはず。母は子どもが顔を、「今いつまで」と(ア)まもりて泣く。子どもはまた、たのもしからぬ母を頼みて、手にとりつきて見あげて泣く。互ひにつきせぬ涙のいろ、袖にあまりて(イ)せきあへず清盛、のたまひけるは、「義朝が子どもの事、に清盛がはからふべきにあらず。賞罰の事は、①にまかせてするばかりなり。なほうかがひてにⓐこそよらめ」と、のたまへばの人々、「いかにかやうに、御心よわきことをば仰せられさぶらふぞ。このをさなきものども三人がひ立ちなば、末の世、②いかなる大事をか引きだしはんずらむ。御子孫のためⓑこそ、いたはしけれ」とめければ、清盛、「たれもさⓒこそは思へども、おとなしをたすけんと申さるるうへは、成人のをばたすけて、をさなきものをば切らんこと、そのいはれ、さかさまなるべし。ひてもいひても、頼朝がによるべし」とぞ、のたまひける。

常葉、「一日も、命のあるこそふしぎなれ。これ(ウ)さながら、の観音の御助けなり」とたのもしくて、わが身は観音経をよみ、子どもには観音のををしへて唱へさせけり。兵衛佐が死罪のこと、池殿うやうに申されければ、死罪ゆるされて、流罪にぞなりにける。「これ、ただごとにあらず。八幡大の御はからひなり」と、、なし。兵衛佐は、東国へながさるべしと定まりてけり。まして常葉が子どもはをさなければ、「ⓓたすかりぞせんずらん」と申しあへりしが、子細なく、罪科なき者どもなりとて、死罪をなだめられけり。

語　注

伊勢守＝平清盛の腹心の部下。

大弐＝官職名。の次官。

天気＝天皇のご意向。

六波羅＝平氏一門の屋敷が軒を並べ、その政権の本拠地となった場所。

兵衛佐＝源頼朝のこと。源義朝の三男で、母は熱田大の。このとき常葉母子より先にとらえられていた。

池殿＝。平清盛の父・の後妻。

いひてもいひても＝何と言っても。

やうやうに＝さまざまに。

問1　二重傍線部ⓐ～ⓒ「こそ」の結びの語について、結びの語を抜き出し（ないものは×）、それぞれ文法的に説明せよ。（4点×3）

ⓐ〔　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

ⓑ〔　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

ⓒ〔　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

問2　波線部(ア)「まもりて」、(イ)「せきあへず」、(ウ)「さながら」の意味として適当なものを、それぞれ次から選べ。（4点×3）

(ア)　ア　隠れて　イ　抱きしめて　ウ　ふさぎ込んで

　　エ　でて　オ　見守って

〔　　　〕

(イ)　ア　止めることができない　　イ　隠しきれない

　　ウ　言い尽くせない　　　　　エ　責められない

　　オ　向き合うことができない

〔　　　〕

(ウ)　ア　すべて　イ　どうやら　ウ　ひょっとしたら

　　エ　まるで　オ　決して

〔　　　〕

問3　二重傍線部ⓓ「たすかりぞせんずらん」を品詞に分けよ。解答は品詞単位に斜線を入れて示せ。（5点）

た　す　か　り　ぞ　せ　ん　ず　ら　ん

問4　傍線部①「勅定にまかせて」と同じ内容になる表現を、本文中から十字以内で抜き出せ。（6点）

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問5　傍線部②「いかなる大事」とあるが、具体的にはどういうことが想定されているのか。簡潔に説明せよ。（8点）

〔

〕

問6　本文の内容に合致するものを次から選べ。（7点）

ア　六波羅の人々は、常葉の子たちの処置を清盛が決めるべきではないと批判した。

イ　清盛は、常葉の幼い子たちを死罪にするのはかわいそうだと言った。

ウ　清盛は、常葉の子どもの処遇を決めるのは頼朝の判決が下った後だと言った。

エ　常葉の子たちは、頼朝が身代わりに罪を得て助けられた。

オ　池殿は、何度も清盛に常葉の子たちを助けるべきだと説いた。

〔　　　〕

練習問題〈係り結び〉

一　次の係助詞の結びの説明を後から選べ。

①冬枯れの気色こそ秋にはをさをさおとるまじけれ。（　　）

②花は盛りに、月はなきをのみ見るものかは。（　　）

③世に語り伝ふること、まことはあいなきにや、多くは皆そらごとなり。（　　）

④飽かずやありけむ、二十日の夜の月出づるまでぞありける。（　　）

⑤たとひ耳鼻こそ切れ失すとも、命ばかりはなどか生きざらむ。（　　）

ア　連体形で結ばれている。

イ　已然形で結ばれている。

ウ　結びが省略されている。

エ　結びが流れている。

オ　文末用法（係り結びではない）。

二　次の傍線部を口語訳せよ。

1. 門よくさしてよ。雨もぞふる。

〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

②茂れる宿のさびしきに人こそ見えね秋は来にけり

〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

問1　ⓐめ・意志の助動詞「む」の已然形。

　　 　ⓑいたはしけれ・シク活用の形容詞「いたはし」の已然形。

　　 　ⓒ×・結びの語は流れ（消滅し）ている。

問2　(ア)＝オ　(イ)＝ア　(ウ)＝ア

問3　たすかり／ぞ／せ／んず／らん

問4　天気にこそよらめ（８字）

問5　成長した子どもたちが父の仇を討つために、平氏に対して戦いを始めること。

問6　ウ

【練習問題解答+口語訳】

一①イ《冬枯れの気色は秋（の風景）に少しも劣ることはないだろう。》

②オ《（春の桜の）花は最盛期に、（秋の）月は曇りのないものだけを見るものだろうか。》

③ウ《世の中で語り伝えられていることは、本当のことではつまらないのであろうか、たいていはみな作り事である。》

④ア《不満足であったのだろうか、二十日の夜の月が出るまでいた。》

⑤エ《たとえ耳や鼻が切れてなくなってしまったとしても、命だけはどうして助からないことがあろうか。》

二①（門をしっかり閉めてしまえ。）雨が降ったら困る。

②（多くのむぐらが生い茂りものさびしくなってしまったこの家には）人は見えないけれども（秋だけはやって来たことだよ。）